

# ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう

令和3年度  
大阪府SDGsビジネス創出支援事業  
SDGsビジネスマップ

## 米配合バイオマスプラスチックゴミ袋の普及拡大により、CO2排出削減ならびに米の消費拡大で農業従事者の支援と地方経済活性化の起爆剤へ



企業名	株式会社西村機械製作所		
所在地	大阪府八尾市	資本金	40百万円
設立	1934年8月1日	従業員数	60名
企業URL	<a href="http://www.econmw.co.jp">http://www.econmw.co.jp</a> 、 <a href="http://www.rice-flour.jp">http://www.rice-flour.jp</a>		
事業内容	食品、化学、薬品、リサイクル等の粉粒体機械製作販売及びそのプラント設備設計施工、輸出入販売		

### SDGsビジネスを始めたきっかけ

国内自給率100%のお米作りを今後も続けていくためには高齢化する稲作農家従事者の所得を安定させ、後継者問題を解決し、耕作放棄地の増加を抑える必要がある。これらの問題を解決するためには米の消費拡大が喫緊の課題であるが、人口減少する国内の状況では“食べる消費”が増えることは想像しがたい。よって、“食べない消費拡大”を考えていなければならない。

一方、プラスチックのバイオマス化でCO2 排出量削減を目指すにあたり、当社の米の製粉技術で米粉比率の高いバイオマスプラスチックの製造技術の革新が可能ではないかと考える。

### SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

- お米の製粉装置ではシェアトップである当社がバイオマスプラスチックの開発にあたり、飼料米や古古米などの廃棄するお米とプラスチックを混ぜる技術を開発。
- 弊社設備を納入した各地域の米粉からバイオマスゴミ袋の製造を行い、地方自治体向けの地産地消の指定ゴミ袋としての普及を目指している。

### SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

- 消費者はCO2排出量の少ないゴミ袋が使い、環境問題への参加意識が高まる。
- お米が有効活用できるので、域内のお米生産者や精米業者、米粉製粉業者の仕事が増える。売上（収入）が増える。
- 域内バイオマスゴミ袋製造メーカーの起業とその雇用促進。
- ゴミ袋を焼却する際のCO2排出量を減らすことができる。

### OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性について

具体的な成果はまだないものの、現在開発中の当該商品を量産化するために、実需に繋がるようサプライチェーン作りや製造委託先を検討している。その上で、地産地消の仕組みと当該商品を実際に知ってもらうことで潜在取引先へ訴求していく。

2022年の前半にはこの方向性を示せるように現在取り組んでいる。

## オフィス用品からSDGsを広げる脱プラ クリアペーパーファイルの開発



企業名	都インキ株式会社		
所在地	大阪市鶴見区	資本金	30百万円
設立	1965年9月	従業員数	45人
企業URL	<a href="https://www.miyakoink.co.jp">https://www.miyakoink.co.jp</a>		
事業内容	印刷用インキ及び印刷用資材の製造・販売・輸出、印刷周辺機器の販売		

## SDGsビジネスを始めたきっかけ

1948年にインク製造業として大阪で創業して以来、小ロットカスタマイズインクの中堅メーカーとしてモノづくりに携わっている。環境に配慮した製品をご提供することは企業の責務であると考え、当社の理念を社会貢献に生かすために、持続可能な製品開発に注力している。SDGsは大企業だけでなく、中小企業こそ積極的に取り組むべきと考え、当社がその先頭に立ちたいと思っている。

## SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

- 同社にて開発した「用紙に含浸させると透明度が出るインク」を紙に含浸させ、透明度・価格において、PPクリアファイルの代替となるような紙ファイルを製造・販売。  
→プラスチックのPPクリアファイルの代替となる環境負荷の軽減に貢献
- 「用紙に含浸させると透明度が出るインク」は同社の独自開発技術である。
- クリアペーパーファイル及びインクと用紙透明化装置をセットで販売する。

## SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

- 日常的に多くの人々が使用しているクリアファイルを紙製にすることで、脱プラ意識をより広域に啓蒙。
- 当該製品とは別に抗菌、防カビ、抗ウイルス機能を付加するインクも開発しており、その技術を「用紙に含浸させると透明度が出るインク」にも適用し、社会に対して安全と安心を付加することができる。

## OSAKA SDGsマッチングの成果や今後の方向性について

- ・いくつか見て頂いた方からのお声掛けを頂いておりまして継続進展中です。
- ・今回の実績も含めて多方面に展開中です。
  - 1) E x p o 2025大阪関西万博の協創パートナーと協賛パートナーにエントリー中。
  - 2) 大阪産業創造館のビジネスマッチングに参加・展開中。
  - 3) その他も展開中。

## 救缶鳥プロジェクト



企業名	株式会社パン・アキモト 関西営業所		
所在地	大阪市中央区	資本金	35百万円
設立	昭和22年12月	従業員数	60名
企業URL	<a href="http://www.panakimoto.com">http://www.panakimoto.com</a>		
事業内容	ベーカリーの運営、防災備蓄用缶詰パンの製造・販売、救缶鳥プロジェクト		

## SDGsビジネスを始めたきっかけ

国内のある自治体から賞味期限が切れる備蓄品を廃棄して欲しいと依頼がありました。そんな中、海外の飢餓国に賞味期限が残り少なくなったパンの缶詰を義援物資として贈り届ける事で大変喜ばれる事が判り、プロジェクトを開始しました。

## SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

■ **パンの缶詰を自分（自社）の為に備蓄しながら同時に社会貢献が出来る「救缶鳥プロジェクト」**を提供。

« プロジェクトの流れ »

- ① 防災備蓄用として缶詰パンを購入希望者（企業・自治体・個人）に販売
- ② 缶詰の賞味期限が切れる6か月前に購入者へ案内し、賛同を頂いたところから同社が缶詰を回収
- ③ 回収した缶詰を民間の企業や団体を通じて海外の飢餓国や被災地へ義援物資として贈呈。

## SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

今まで国内外合わせて累計40万缶以上の缶詰が届けられました。本当に必要としている国や地域に責任を持って届けて、更に現地に届けたレポートを賛同者へ通知して、「義援の見える化」を行っています。世界では、1分間に17人が飢餓で命を失い、その内5秒に1人が5歳の誕生日を迎えることなく亡くなっています。当プロジェクトは、日本人のやさしさ、大阪からのやさしさを困っている人たちに届けます。

## OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性について

普段接点の無い団体との面談機会を持てた事で、新しい可能性が広がりました。今後も救缶鳥プロジェクトに参画する事によって、SDGsゴール達成に繋がる事を認知していただき、更なる普及に努めたいと思います。

## レンタルでオモイを叶える



企業名	コーユーレンティア株式会社		
所在地	東京都港区	資本金	8億7896万円
設立	1970年10月	従業員数	373名
企業URL	<a href="https://www.koyou.co.jp/">https://www.koyou.co.jp/</a>		
事業内容	F F & E レンタル業。建設業界・不動産業界・イベント業界をはじめ、国内外の企業向けに* F F & E をレンタル。 *furniture, fixtures and equipment (家具、什器、備品)		

## SDGsビジネスを始めたきっかけ

1960年代後半、建設工事現場の事務所内で利用する机・椅子などを貸し出すことで、現場事務所の職場環境を担保するサービスを発見し、レンタルビジネスをスタート。現在は、イベント会場、住宅販売センター、各プロジェクト室、業種・地域に限定せず、納入先を増やしている。

## SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

- 利用したい期間だけ、オフィス家具・家電・PC・タブレットなどを貸出（レンタル）し、貴社の業務活動の運営を物品企画・提供でサポートします。
- レンタル資産は北海道から沖縄までの11の物流センターで整備・補完し、利用される場所まで配送・設置をします。
- 建設現場では50年以上、イベント会場では20年以上の実績があり、案件及び会場の企画提案も可能です。
- 近年の保有商品数は100万点超え、在庫が不足した場合は同業企業との協力での対応をしています。購入一択の業界（教育）を中心にレンタルの選択を提供することで、限りある資源を有効活用、経済的視点でも成長性が期待できます。

## SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

顧客が事業を運営するにあたって、必要な備品をシェア（レンタル）することで、資源の有効活用につながり、環境負荷を低減できる。シェアすることで、廃棄物の発生を抑制でき、低炭素社会へ繋げることが可能。

## OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性について

ゴール8 VUCA時代に合わせたオフィス空間をレンタルサービスで、働きやすい職場環境をつくります。  
 ゴール11 日本中の建築工事現場をレンタルサービスでサポートし、まちづくりのお手伝いをします。  
 ゴール12 3R（リデュース・リユース・リサイクル）を進化させ、ゼロエミッション。つかう責任を全うします。  
 ゴール17 レンタルサービスは、1社では成り立ちません。仕入・搬入・搬出・整備・管理・メンテナンスといった協業の幅を増やして、サービス利用層を拡大します。

生きる基盤の睡眠をよくして全ての人が健康や働きがいを実感し、安心して暮らせる社会をつくる。



企業名	一般社団法人ライフシフト睡眠メンタリーヘルス協会			
所在地	奈良県奈良市	資本金	—	
設立	2021年12月	従業員数	1	
企業URL	<a href="https://lifeshift-suimin.com/">https://lifeshift-suimin.com/</a>			
事業内容	睡眠研修、睡眠コンサル、監修、睡眠の専門家育成			

### SDGsビジネスを始めたきっかけ

52歳で睡眠不足が原因でガンになったことがきっかけで、睡眠を良して健康で心豊かな社会をつくるために睡眠の大切さを伝える活動をしています。

### SDGsビジネスの概要とポイント（特徴、ビジネスモデル含む）

- ・事業内容：睡眠研修、睡眠改善コンサル、睡眠関連製品・サービスの監修、睡眠の専門家の育成
- ・目的：日本人成人の9割以上が睡眠に不満を感じて、20歳代の4割以上が日中の眠けでパフォーマンスの低下を感じている。しかし日本では睡眠について学ぶ機会があまりなく、その結果日本は世界で一番寝ていない国、睡眠後進国ともいわれている。
- ・**同じ睡眠時間でも睡眠の質をよくすれば日中のパフォーマンスが上がり仕事や家事、学習効率がアップし、健康で人間関係も良好になる。**
- ・企業は社員の睡眠をよくし健康的に仕事の質と効率を高めると労働時間が短縮でき「社員から喜ばれる働き方改革」が推進できる。
- ・研修、セミナー実績：奈良県警察本部、奈良商工会議所、兵庫県高等学校教職員組合、学校法人、電鉄、製造メーカー、カード会社他

### SDGsビジネスが社会や顧客に与える影響・効果

- 睡眠の質を高めて
- 目標 3：心と身体の健康の基礎ができ、事故ケガを防ぐ。
  - 目標 4：思考と運動の記憶を定着させて学力、スキルアップ。
  - 目標 8：仕事の効率が上がり働く意欲が高まる。
  - 目標 9：発想力が豊かになり新たな技術革新につながる。
  - 目標 11：警察官、消防士、医療従事者の集中力維持。
  - 目標 16：人間関係が良好になり争いが減る。
  - 目標 17：人間関係と判断力が高まり助け合って目標達成。

### OSAKA SDGsビジネスマッチングの成果や今後の方向性について

今後の方向性：「睡眠で日本を活性する」  
 SGDの取組みにおいて生きる基盤である睡眠は多くの目標の達成に繋がります。健康、働き甲斐、パートナーシップ、働き方改革の推進による産業発展への寄与など。今後はより多くの人々が睡眠への意識を持ち睡眠の質をよくすることで健康になるだけでなく、日中のパフォーマンスを高め仕事や家事の効率を上げて、人間関係が円満な社会を築くための活動を拡大推進していきます。  
 そのために睡眠セミナーや企業研修の実施を拡大し、さらに睡眠の大切さを広く伝えるために睡眠の専門家の育成への取組みを強化していきます。